

食の講演会

「放射能が奪ったもの」

～酪農家 長谷川健一さんが語る…飯舘村で何が起きているのか～

2011年3月11日に発生した東日本大震災。1万5千人を超える尊い命が奪われました。また地震により起きてしまった東電の原発事故は、未だ収束の目途が立っていません。

パルシステム山梨の組合員さんより「原発について、放射能について情報がほしい！」と多くの声が寄せられています。2011年度初のオープンカレッジは「計画的避難区域」となった福島県飯舘村から酪農家の長谷川健一さんをお呼びして、そこに今も住み続ける自らの思いと体験をお話していただこうと思います。

今回の大惨事は、私たちが当たり前のように享受してきた「豊かさ」という価値観を根底から揺さぶっています。出荷制限のために原乳を絞っては捨てる毎日。我が子同然に育ててきた牛と別れざるを得ない辛さ。事故後からご自身で撮り続けられている映像を交え、震災前後の出来事や思いを率直に語っていただきます。

現地の生の声を聴くことによって、今私たちが住む日本で何が起きているのか…外国の出来事ではありません。放射能による食物汚染は深刻さを増しています。私たちが許してきた原発。その事故によって子どもたちが汚染された食品を食べなければならない現状…。子どもたちを被曝から守り、福島をはじめとした日本の第一次産業を守るためには？を一緒に考えてみませんか？

また、フォトジャーナリスト森住卓さんが撮り続けた3.11以降の福島の写真展を同時開催します。カメラのファインダーを涙で曇らせながら撮影した写真の数々は、被災地から離れた山梨に住む私たちに問いかけてくることでしょう。「原発」や「これからの日本」のことを…。たくさんの方のご来場、お待ちしております。



長谷川健一さん

福島県飯舘村の酪農家。58歳。飯舘村前田地区区長。福島県酪農業協同組合理事。大多数の住民が避難した今も村に残り、見回りを続けている。事故後に購入したビデオカメラで村の現状を記録、各地で自らの体験を語り始めた。

フォトジャーナリスト 同時開催！！
森住卓の写真展『福島』

フォトジャーナリスト 森住卓(たかし)さん

■1994年より世界の核実験場の被曝者を取材開始
■1999年「セミパラチンスク草原の民・核汚染の50年」(高文社)出版。週刊現代「ドキュメント写真大賞」、第5回平和協同ジャーナリスト基金奨励賞をそれぞれ受賞。

○日時 2011年9月24日(土) 開場 13:00 開演 13:30
○会場 ぴゅあ総合(山梨県立男女共同参画推進センター)大研修室

(甲府市朝氣 1-2-2)

○講師 長谷川健一さん(飯舘村の酪農家)
○定員 150名 ※入場無料(どなたでも参加出来ます)
○保育あり(定員 10名 400円/人、2人目から200円/人)

電話、ファックス、メールのいずれかでお申し込みください。

○申し込み・問い合わせ

TEL/055-243-6327

メールアドレス/yamanashi@pal.or.jp

FAX/055-243-6359

土屋まで